

平成 28 年度 第 1 回千葉県がん対策審議会 小児がん部会 議 事 録

- 1 日 時 平成 28 年 9 月 14 日 (水) 午後 6 時 30 分から 8 時 15 分まで
- 2 場 所 千葉県教育会館 604 会議室
- 3 出席委員 星岡部会長 角南委員 浅野委員 原木委員 小川委員 井上委員
欠席委員 西牟田委員 吉田委員 小森委員

4 議 題

- (1) 小児がん支援事業について
- (2) 小児がん診療に関する医療機関実態調査について
- (3) その他

5 報 告

- (1) 関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会報告

6 議事内容

議題 (1) 小児がん支援事業について

【事務局より資料 1、2 に基づき説明】

○星岡部会長

事務局から 2 つの事業について説明があったが、事業ごとに御質問や御意見を聞いていきたいと思う。まず、情報提供冊子の配布・活用についていかがか。

○角南委員

事務局案で問題ない。

○星岡部会長

配布先や部数に関する予定が出ているが、まずはこれで始めてみるということではよいか。また、冊子とあわせて資料 2 の医療機関調査結果も送付するということだが、別添についても一緒に送付すると考えてよいか。

○事務局

そのとおりである。

○星岡部会長

また、調査結果の内容については、ホームページに公表するということだが、これも確認済みということではよいか。

○角南委員

確認済みである。

○小川委員

確認したいのだが、今後の冊子の情報更新や改訂の予定、予算はどのようになっているのか。

○事務局

現在のところ改訂の予算は取れていない。だが、前回の部会でも冊子の次のステップというご意見があったため、今後はその点も含め、内容改訂の際に情報更新の方法等について検討していきたい。

今回、印刷した部数は、現在の小児がん患者数よりも多く作成できたということもあり、今後、あまりにも情報が古くなるようであれば、事務局としても更新していきたいと考えている。

冊子にできない場合でも、PDF形式でホームページに掲載し、更新のお知らせをするなど考えている。

○星岡部会長

他に質問はないか。無ければ、事務局には案のとおり冊子の配布・活用をお願いする。

続いて、人材育成・発掘のためのピアサポート相談事業について、事務局としては今年度中に研修実施を行う方針のようだが、すでに9月であるため、早めの対応が必要となる。

研修内容や講師等について、御意見や質問はあるか。

○原木委員

前日も検討したかと思うが、参加者をどのように集める予定となったのか確認したい。

○事務局

具体的な方法は決定していないが、患者会の方だけに限らず、ホームページ等での周知や医療機関に御協力いただき、継続的に受診されている経験者へ情報提供をお願いすることで、参加のきっかけの一つになればと考えている。その他、良い方法があれば御提案いただきたい。

○小川委員

新聞や県政便りなどに掲載するのはどうか。千葉県で治療をした方でなくても、活動してみたいがどのようにアクセスしたらいいかわからないという方もいると思うため、広く募集するのがよいと思う。

○原木委員

医療機関にはフォローアップのために来院する方もいるため、そのようなところにポスターを貼るのはどうか。私もあの子とあの子のお母さんは興味を持ってくれそうなど、思い浮かぶ方がいる。

○星岡部会長

なかなかピアサポーターになって協力しようという人を見つけるのは難しいと思う。

○井上委員

ミルフィーユでもスタッフをリクルートするのはとても難しい状況である。助けてもらいたいが、助けるのは難しいという人が増えているように思う。小児がん患者本人やその親は若いため、時間があったら働きたいという人が多い。小児がん経験者本人も、サポーターになりたいが、固定で責任を持たされるのは嫌という人がいる。若いということも影響していると思う。

○事務局

どのような体制だったら活動できるのかについても、研修会でアンケートなどを行い情報収集していきたい。今回は、茶話会でアシスタントとして活動していただいた方には、県の規定に基づき算出した額となるが、謝礼金の支払いを考えている。それにより、少しでもあれば活動に参加できるという方が参加してくれると考えている。だが、県の事業として長く継続していけるかは課題である。

○小川委員

だからこそ広く広報する方がいいと思う。「千葉県でこのようなことを始めますよ」と新聞に載せて、どこかに眠っている活動したいと考えている人たちにも情報が届くようにしてほしい。

○井上委員

将来、看護や医療系の仕事に携わりたいと考えている学生などは興味が無い訳ではないと思うため、そこも含めたらどうか。また、リストの中に東京慈恵会医科大学附属柏病院が入っていないが、以前、その病院に通院している方から入会したいというアクセスがあった。慈恵大柏病院にはそのようなインフォメーションがなく、親の会も潰れたとのことである。このように埋もれているところがあるため、小児がんの治療を行っている医療機関を見直し、配るといいと思う。

○事務局

成人が対象ではあるが、がん診療連携拠点病院の相談支援センターにも、周知依頼することとしたい。

○星岡部会長

食物アレルギーにも親の会等いろいろな会があり、一部の人が運営に協力していくことで、サポーターになっていく流れになる。

小児がんでは患者の親の会はあるのか。

○井上委員

千葉県では先生の方から、主な治療をしている病院がまとまって親の会を作らないかという声が1997年からあり、先生方のバックアップのもと、ミルフィーユが作られた。

そのため、千葉県ではミルフィーユしか親の会がない。成田でも作ろうとしたがうまくいかなかった。

○小川委員

アレルギーに関しては患者数が多く、日常生活を送る上でも困ることが多いため、手を繋ぎやすく、また情報が必要となる。一方、小児がんは患者数が少なく、入院中は子供が中心となるが、家に帰ればほとんどケアは必要ないため、アレルギーとはニーズが異なると思われる。

○星岡部会長

では小児がん経験者の親で、手がかからなくなった方を対象とするのか。

○井上委員

その場合は働きに行く方が多いため難しい。そのため、残るのは私のように子育てが終わった人になる。

○小川委員

確認だが、ピアにもお母さんのピアと患者本人である子どものピアがあるが、どちらなのか明確にしないと、自分が対象なのかかわからないと思うので、まずは小児がんの親御さんからスタートしてもいいと思う。

患者本人のピアを探すのであれば、看護や薬学系の学校に進学している人が多い。また、患者のきょうだいも多い印象である。私の所属する学校でも毎年必ず、きょうだい患者であったという人の話は聞くため、誰のピアなのかを明確にして、情報提供するのがよい。

○事務局

今回、もし親御さんだけで絞った場合に問題となるのは、なかなか集まらないのではないかとこの点である。研修会の内容を考えると、親御さんや患者本人等は分けて研修会を開催するのがよいのか、もしくは親御さん、患者さん、きょうだいの3パターンに該当する方をお呼びし、まとめて開催するのがよいのか迷うところである。

○井上委員

今度、キャンプに行く予定だが、その募集の際には特に区別しなかった。というのも、各々の立場で重なる部分が多いからである。親は他の小児がん経験者を見て学ぶことができ、小児がん経験者も他の親を見て学ぶことができる。そのため、区別をしなくても不便は特に感じていない。だが、相談窓口となった場合には、分ける必要があるのか迷う。

○小川委員

それならば、関連する御家族や経験者などとした方が、親御さんなのか経験者のことなのか迷わないと思う。

○井上委員

ピアではないかもしれないが、看護系などの医療者も対象にするのはどうか。

○小川委員

医療系も含むとこのような場に参加して勉強したいという人も集まってしまい、対象が違ってしまいうため、どのくらい集まるか分からないが、まずはピアとして経験者本人や御家族などの当事者が対象であるということを明確にするのがよいと思う。

○事務局

募集する際に、家族、きょうだい、経験者と明記する。

○井上委員

きちんと載せておかないと、ときどき小児がんの知識もなく、全く関係もない方から手助けをしたいという連絡がくることがあるが、その段階から面倒をみることはできないため、ある程度、関係した方を対象にした方がいい。

○星岡部会長

募集対象者として、家族、きょうだい、経験者がいいのではないかという意見が出ているが、浅野委員は何かあるか。

○浅野委員

もともと数が少ないため、どのくらいの人に参加してくれるかわからないため、条件は広くしておいた方がいい。

○角南委員

対象を広くすることには賛成だが、周知方法としては院内周知よりも広報誌の方がいい。時間が経った患者さんは数年に1回などの通院になり、夏休みも終わってしまったため、今年度に関しては広報誌を優先した方がいいと思う。

○星岡部会長

ミルフィーユから会員に連絡を取ることはできるか。

○井上委員

300名ほどの名簿は持っているが、会費をくれていない方がほとんどで、2年の滞納がある場合は除いているため、実際には157名程度にしか連絡が取れない。

そのため、あとは病院内の親御さんなどに直接あたることになる。

○事務局

市町村の広報誌等は2か月前くらいが締切となっている。

一番はホームページと県の広報である。ただ、県民だよりは優先する記事があると、応募しても通らない可能性がある。また、地域新聞は比較的協力を得やすいため、そちらを活用して広く広報していく方法もある。

○小川委員

家にいる人は地域新聞を読んでいる場合が多いと思う。

○井上委員

各市の市政だよりはどうか。

○事務局

比較的協力してもらいやすいと思う。

○星岡部会長

では、そのように広報し、対象者を集める方向で事務局には考えていただく。

○小川委員

ちなみに研修会はいつ開催する予定なのか。

○事務局

早めに実施したいと考えてはいるが、なかなか準備が進まない状況である。時期について提案はあるか。

○井上委員

土日に開催する予定か。

○事務局

集まる方のこと考えると土日が望ましいのか。

○小川委員

年明けだとありがたい。

○井上委員

私は全てスケジュールが埋まってしまっている。

○角南委員

講師の年内の予定は決まっているのではないか。

○事務局

講師については、年明けに交渉できればと考えている。

○星岡部会長

では1月～2月を目標に土日の開催ということによろしいか。

講師の候補については、骨髄バンクの常任理事が挙げられているがいかがか。

○井上委員

この方は骨髄バンクの設立に尽力された方で、現在、「血液情報広場 つばさ」を運営されている。かなり以前から「傾聴」という言葉を使い、相談窓口を開設されており、経験豊富で、私も彼女に教えてもらいながらやってきた。厳しい方でもあるが、彼女なら来てくれるかもしれないと思い提案した。この方でなければだめというわけではない。

○原木委員

お世話になったことがあるが、とても優しかった。

○井上委員

私には厳しかった。

○星岡部会長

まさに、サポーター経験がある方ということなのか。

○井上委員

彼女は成人の血液疾患に関する情報提供を中心に行う NPO 活動をしており、小児にはあまり関わっていない。だが、傾聴については多くの経験をお持ちなので推薦した。

○星岡部会長

研修会では何人かの方にお話をさせていただくことになるかと思うが、人選はどうするか。

○小川委員

何をプログラムに入れるかだと思う。傾聴や対人関係、理論や疾患、そして実際に関わっている方の特徴を踏まえたサポートが大切である。研修会で何をどこまで盛りこむか明確にした方がいい。

○井上委員

研修会 1 回では終わらないのではないか。テーマを絞りながら、「サポートって何」というところから回を重ねることで、「傾聴は大事」という意識になり、知識を持ちながら黙って聞くという姿勢が身に付く。サポーターに何が必要かを決め、それにあったタイトルをつけた研修会を開催するのがいい。

○事務局

短い期間でピアサポーターとしての心得を学んでもらうのは難しいと思うが、最初から詰め込むと敷居が高くなってしまおうと考える。まずは人材発掘や興味を持ってもらうため、コンパクトにして基本的なことを伝えるほうがよいと考える。県で開催している、成人を対象としたピアサポート研修は、数日間かけて実施しているが、小児がんのように数が少ない中では難しいと考えている。

どこで折り合いをつけるかだと思うが、半日×2回のコースくらいが現実的ではないか。具体的に考えるほど、様々な課題も見えてくる。

○浅野委員

最初から詰め込むと参加してもらいにくいので、まずはピアサポーターになってもいいという方に対するイントロダクションでもよいのではないかと。キャッチーなコピーをつけることで気軽に参加していただいてから、どのようなことを学びたいかなどの情報を得たほうが良いと思う。

傾聴を最初から前面に出すと、また勉強かと思われてしまう。「軽い気持ちで参加したら、研修内容が重かった」と思われ、二度と参加されなくなってしまう。

最初はしっかり聞くことは大切なことであるという程度のアピールにとどめ、来年度以降、本格的にやっていくというのはどうか。

○井上委員

その通りだと思う。

スタッフには、入院中、実際にボランティアとして活動している私の姿を見て、退院後「私にもできるかも」、「心の支えになったから」と考えて来てくれる人が多い。

スタッフがやりたいと思っていることは、事務的なことではなく、やはり、現場でのサポートだと感じる。私自身、相談を受けたときは、活動を通じて経験したことを、相談者の状況に合わせて伝えている。

そういったことを振り返ると、茶話会などの活動を知ってもらい、活動のお手伝いを頼むような形で始めた方がよいのかもしれない。

○浅野委員

立候補としては、そのようなパターンが良いと思う。

○井上委員

まずはどのような活動をするのかを知ってもらい、それとあわせて知識や大変なことなども学べるという。

○浅野委員

そうすると、骨髄バンクの先生というよりは、患者会から代表者を3人ほど呼び出して話してもらった方がよいのではないかと。

○小川委員

小児がんも外来治療になっていくため、サポートの仕方が変わっていくと思うが、サポートが必要な方は病院にいる。

病院の中で親を集めたサロンを開くなど、実績を県に残すのであれば、病院に入り、親御さんのサポートをして広げていくという方法もあるかもしれない。

そのため、研修会を広く実施するというよりは、患者会などの中で、やりたいと思っている方を対象に専門的な傾聴をロールプレイなどで学習するのもいいと思う。そうすると講師は井上委員などをお願いすることになると思うので、日程調整などもしやすくなり、目的も今いるサポーターの方たちの技術向上ということになる。そして、その方たちが様々な施設で活動していくことで、将来、「自分もできるかも」、「やりたい」と考える人が広がっていくのではないかと。

○井上委員

施設が活動させてくれるかが不安である。個人的に、総合病院では医師よりも看護の方々の壁の方が高いと感じる。

○角南委員

ピアサポーターをするうえで、看護は関係ないから大丈夫である。

○井上委員

角南委員の所属する病院は大丈夫ということではないのか。

○浅野委員

がん診療を実施している病院は、茶話会や患者会などを実施していると思う。

○小川委員

小児がんの問題は、茶話会などを実施して親御さんがそれに参加した場合に、子どもをどうするのかという点であるため、その点をどのようにサポートするかも考えなければならぬ。

○角南委員

保育士を入れるはどうか。

○星岡部会長

以前と違い、保育士はいると思う。

○小川委員

小児がんのピアサポートの対象は、まず病院にいる方になると思う。

○角南委員

研修会で勉強する機会を作り、あわせて茶話会も行うという流れになるかと思う。

○小川委員

1施設1万円ほどの予算を想定すると、お菓子などを買うなどもできる。アシスタント代は安くてもいいし、交通費を出せばいいと思う。

○井上委員

必ずフィードバックするという約束で、茶話会は是非やりたい。

○星岡部会長

まず今年度は、病院で入院している患者の親御さんを対象としたサポートということによいか。広く見ると、今後の進学、就職、結婚のサポートなどもあるかと思うが、一度に両方実施するというのは難しいか。

○井上委員

茶話会に参加してくれた方は興味を持ってくれる場合が多いため、落ち着いたころに参加したいと連絡をくれることがある。

○星岡部会長

院内での茶話会について意見が出たが、事務局から何かあるか。

○事務局

いただいた意見を集約して、一度案を作ってみる。ただ、場合によっては、個別に御相談させていただく場合があることを御了承いただきたい。1月に実施するとすれば、第2回の部会は間に合わないため、メール等で情報提供しながら進めていく。

○浅野委員

井上委員としては、即戦力を育てていくという方法はどうか。井上委員の体調が悪いときなどに代われる人が出来るといい。

○井上委員

引退したいと考えているのだが、発展途上の人が多く、まだ手が離せない状況である。

○小川委員

その発展途上の方を育てるのが今回の研修会である。ロールプレイで井上委員が患者役として参加するなどして、学んでいくのである。

○井上委員

それならば、参加は少人数ですむ。

○小川委員

そして、研修会に参加した方が実際に病院の茶話会などで活動していく。

○浅野委員

井上さんのような方をたくさん育てていくのは良いと思う。

○星岡部会長

では、対象は親御さんということによいか。それとも経験者本人も含めるのか。

○井上委員

本人も含めてもよいが、働いているか、家に閉じこもっている場合が多いため、自由に動ける経験者は自分のポジションを社会的に得ているため、参加は難しいと思う。そのため、中途半端になってしまっている人こそ、引っ張り込みたいが、身体が不調ということもあるため、来ることができるのであれば来てほしい。

○星岡部会長

がんを経験した方がいると、子どもたちにとってもいいと思うので、対象は親御さん、きょうだい、そして経験者本人もということによいか。

○小川委員

病院で、入院している患者の親御さんを対象としたピアを行うのであれば、親御さんが主体となる。思春期の子供たちのピアでもいいのだが、どのように作っていくかが難しい。

○星岡部課長

この場で全て作っていくのは難しいため、再度、事務局で案を作り、皆様の意見をもらいながら検討していく方向性でいいか。また、サロン・茶話会もやりながらということになると思うため、事務局から案を出していただき、私や井上委員を中心に検討していく。

○井上委員

まずは研修会ということによいか。

○事務局

まずは研修会を実施し、そのあと茶話会を実施する。

○浅野委員

茶話会は、研修会に参加した後の実地練習となる。実際に参加して振り返るということを通りかかると、より良くなっていくと思う。

○小川委員

ちなみに予算は3月いっぱいまで使えるということによいか。2月までという制限がある予算もあるため、確認させていただく。

○角南委員

3月までだと、2月の始め頃に研修を実施することになるのか。

○小川委員

1月の半ばころに研修会を実施するのがいいと思う。

○浅野委員

1月に開催し、報告書をまとめ、次年度に予算を要求するのがいいと思う。

○星岡部会長

今回出た意見のような方向性で、研修会の開催に向け、事務局で準備を進めてもらいたい。

議題（２）小児がん診療に関する医療機関実態調査について

【事務局より資料３、４に基づき説明】

○星岡部会長

実態調査について何か意見はあるか。

○角南委員

資料３の問７⑨の目的は何か教えてほしい。２００～３００名の現状について、診療科を跨いで全データを拾い上げて回答するため、大変な労力がかかる。そのため、質問を無くした方がいいと思うが、もし必要ならば、５年に１回などでもいいかもしれない。

他の質問については、簡単に回答できるものが多いため、そのままでもいいと思う。

○事務局

本質問については公表しないため、御意見いただいたように、数年に一度の調査で傾向等を把握していくことも可能である。

○星岡部会長

問７⑨を無くしてもいいのではないかという意見であるがいかがか。

○角南委員

「収容をしているか」など、質問を簡素にしてほしい。

○星岡部会長

では、問７⑨については、質問する内容を簡略化することとする。浅野委員も同意見か。

○浅野委員

私もそうした方がいいと思う。関東甲信越の調査と項目を合わせてもらうと、コピーで済むため、個人的にはありがたい。

○星岡部会長

項目を合わせられるかどうかも含め、再度、事務局の方で検討していただく。

○浅野委員

細かい部分については、毎年回答するのは難しいが、実態調査自体は必要なことだと思う。

○星岡部会長

調査時期について、今年度は９月～１２月、来年度以降は同じ時期に統一し、５～７月ということとする。

○小川委員

毎年調査するということだが、問４の療養環境などはあまり変わらないと思う。そのた

め、例えば昨年度の回答欄の隣に空欄を作り、変更があれば記入するような方式にすることはできないか。

○事務局

事務局としてもそのような調査の方が回答しやすいと考えていたため、反映は可能である。

○小川委員

本当であれば、郵送ではなく、インターネット上で答えをクリックして回答していく方が望ましい。

○事務局

そのような回答方法は難しい。

○角南委員

予算上の問題もあると思うし、データ等を送ってもらえればいい。

○星岡部会長

公表の方法について、資料4に示されているが、何か意見はあるか。

○小川委員

この結果は、ちばがんナビから見ることができるのか。

○事務局

資料は千葉県ホームページとなっているが、今後は、ちばがんナビにも載せたいと考えている。というのも、ちばがんナビは更新する時期がある程度決まっているため、遅くなってしまうことから、先に県ホームページに掲載している。

○小川委員

一般の方が検索するときは、「千葉県 小児がん」で検索する人が多いと思うため、このようなキーワードで引っかかるように登録してもらいたい。千葉県ホームページではリンクの階層が深いため、たどり着けないこともある。

○事務局

県ホームページを作成する際、検索キーワードを設定することができるため、そのようなキーワードをつける予定である。

○星岡部会長

公表内容についてはあらかじめ公表の範囲等については御理解いただいた上で、回答いただいているということによいか。

○角南委員

それに配慮した内容となっている。

○星岡部会長

公表については、以上でよろしいか。

では、事務局は、資料3については一部、内容を変更し、資料4については概ね了解を得たということで、公表に向け、今年度の実態調査の準備を進めていただく。

議題（3）その他

【事務局より資料5に基づき説明】

○星岡部会長

スケジュールについて意見があるか。指標等は来年度から検討するのか。

○事務局

今年度の後半から検討する予定である。

○小川委員

千葉県がん対策推進計画は今年度までということか。

○事務局

平成29年度までである。

○星岡部会長

今動いている事業等はいまうまくいきそうだが、指標については次回の部会で話し合うことになるのか。

○事務局

今年度実施する第2回の部会から来年度にかけて検討していく予定である。そこで、計画の見直しに係る調査等の必要性などについて、御意見をいただきたい。

○星岡部会長

今回、部会に参加するのが初めてということもあり、指標のイメージがわからないのだが、どのようなものなのか。

○事務局

具体的にまだどのようなものとは言えないが、数値等で見えるようにしたい。中間評価のときに、「現時点では数値がこれくらいであるが、5年後はこのくらいに増えている」等の指標があったほうが良いとの御意見があった。国で今年、計画を改定する予定であるため、国の評価の指標を参考にしながら、委員の皆様から御意見をいただき検討していきたい。

○星岡部会長

他の病院の状況を知ってもらうことで、自分の病院も改善していくような考え方でよいか。

○事務局

どちらかという、小児がん患者さんやその関係者の方に調査し、暮らし方などに対する感じ方などの変化や傾向を見るなど、県全体として小児がん対策がどのくらい進んだかわかるような指標を検討したい。

○星岡部会長

承知した。他に意見はあるか。

○浅野委員

ピアサポーターの認定制度などはないのか。

○事務局

今のところない。

○井上委員

独自に、修了者に対し賞状などを出しているところはある。

○浅野委員

大学などでは学生に賞状を渡すととても喜ばれる。

「認定」として賞状を作ることで、実績が数としてわかるため、指導者の数も井上委員の1人から研修等により、3年後には10人になったなど追うことができる。

賞状があると本人も嬉しいと思うので、検討いただきたい。

○井上委員

昔だが、ボランティアをしたときに県から賞状をもらったことがある。

○事務局

研修会等を受講してくれた方に賞状を出すことがある。

○角南委員

修了者数は指標にもなると思う。

○浅野委員

以前実施した実態調査と同じ項目で再度調査し、割合の増減をみるのもいいと思う。

○星岡部会長

今回出た意見を、次回の部会で盛り込んでいただくこととする。

○井上委員

成人のピアサポーターの研修は、県で業務委託していると聞いた。小児がんについては県全体をミルフィーユ1つでカバーしているため、業務委託のような支援がほしい。寄付などもあるため、経済的なバックアップまではいらないが、若い親御さんたちが活動するには、やはり謝礼金等のお金が必要となる。会員からは、お金が出るのであれば事務の仕事が続けてもいいという意見もたくさん出ている。

また事務所がなく、自分の家で活動しているため、相談者から患者団体の活動場所と気付かれない場合も多い。ミルフィーユの名前が有名になったことで、問い合わせも増えたため、事務所として県の施設の一角を月1、2万円で貸していただけたらすると、後継者を育てやすい。事務所があることで、心や体は健康だが、会社に毎日行けないような小児がん経験者を雇い何か活動をしたり、駆け込み寺にしたりすることもできる。「先生には言えないけど…」という相談も多く、話を聞くと、親自身も気がついていない医学的問題点に気づくことができるため、先生にフィードバックすることができる。普通だと家賃は最低でも年間300万円以上かかるため、毎月数万円で借りられる場所があればいい。職員寮の空室でもいいので、こども病院などでも一角借りられないか。

○星岡部会長

事務局の方でもすぐに返事は出来ないと思うが、成人の方でうまくいっている事例があるのであれば、それをもとに検討していただきたい。

○事務局

そのようなビジネスモデルが可能かどうか調べてみる。

報告（1）関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会報告

【事務局より資料6に基づき説明】

○星岡部会長

何か意見はあるか。特に意見が無ければ、これで終了とする。